

## 令和3年度 学校図書館評価シート

足立区立 東島根 中学校 校長 大瀧 訓久

## 1 学校図書館の現状 (今年度末)

蔵書状況	① 蔵書数 11,072 冊 (蔵書基準冊数 10,160 冊) / 蔵書率 108 % (前年度 107 %)									
	② 新規購入図書 527 冊 / 廃棄図書 437 冊 / 増減冊数 90 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.4 %	3.4 %	12.1 %	11 %	7.9 %	4.7 %	2.7 %	9.2 %	6.2 %	40.4 %
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間: 月曜日～金曜日/昼休み～16:45 (前年度からの変更 あり・ <del>なし</del> )									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 9.5 冊 (前年度: 8.0 冊)									
	③ 学校図書館利用率 1,084 % (前年度: 1,428 %)									

## 2 学校図書館基本計画「学校図書館の目標・ねらい」の達成状況 (今年度総括)

- ① 昨年につづき新型コロナウイルス感染症対策の影響により学校図書館の開館日数は持ち直したものの、来館者は伸びなかった。読書活動の推進や読書に親しむ活動を通して利用促進していきたい。
- ② 調べる学習コンクールへの参加や職業調べ、校外学習に向けての事前学習を通して、学校図書館の情報を効果的に活用し、主体的に学ぶ力を身に着けることができた。

## 3 今年度の重点指導事項・具体的取り組み、及び成果目標の達成状況

第1学年	① 小学校からの読書習慣を継続しながら、読書に親しむ意欲を育成する。 ② 学校図書を活用した探究活動を通して、問題発見・解決能力の育成を図る。 ③ 図書の借り方や扱い方等、正しく利用する態度を育てる。	
今年度の成果目標	達成基準	
① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。 ② 図書館の本や新聞等を活用しながら探究活動を進め、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みを知る。	① 第1学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増 ② 読書や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合100% ③ 学校図書館オリエンテーション(4月)の学年全生徒の受講率100%	
目標達成状況	① コロナ禍で図書室利用可能時間が大幅に減り、生徒一人あたりの年間貸出冊数は目標には届かなかった。 ② 調べる学習コンクールへの参加や職業調べ、SDGsに関するレポート作成の授業(国語・総合で計10回程度)を通して、生徒たちは学校図書館を活用した探究活動や表現方法を身につけることが出来た。 ③ オリエンテーションの実施率は1クラス実施できなかったものの、きまりや仕組みの理解を促し正しく利用する態度を育てることが出来た。	

<b>第2学年</b>	① いろいろな読み物を読もうとする意欲を育てる。 ② 課題によって学校図書やICT機器を使い分ける活動を通して、情報活用能力の育成を図る。 ③ 学校図書をよりよくするための思考を通じて、規範意識の育成を図る。
<b>今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>
① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進めることができる。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、必要に応じて学校図書館を活用することができる。	① 第2学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増 ② 読書や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合100%
<b>目標達成状況</b>	
① コロナ禍で図書室利用可能時間が大幅に減り、生徒一人あたりの年間貸出冊数は目標には届かなかった。 ② 職業調べや校外学習の事前学習を通して、学校図書館を活用した探究活動や表現方法を身につけることが出来た。	

<b>第3学年</b>	① 読書をとおして考えを広げたり、深めたりしようとする意欲を育てる。 ② 学校図書やICT機器を活用した探究活動を通して、言語能力の育成を図る。 ③ 学校図書をよりよくするための活動を通して、主権者としての素養を育成する。
<b>今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>
① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進め、表現することができる。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、よりより仕組みについて考えたり、話し合ったりすることができる。	① 第3学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増 ② 学年生徒の調べる学習コンクール参加率100%以上 ③ 読書や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合100%
<b>目標達成状況</b>	
① コロナ禍で図書室利用可能時間が大幅に減り、生徒一人あたりの年間貸出冊数は目標には届かなかった。 ② 調べる学習コンクールは当学年では実施しなかった。 ③ 進路に関する学習を通して、学校図書館を活用した探究活動や表現方法を身につけることが出来た。	

## 4 学校図書館環境整備に関する取り組み成果・効果

### 【蔵書・配架等に関すること】

- ① 新規購入図書の受け入れ・登録作業がコロナ禍により、最終発注締め切り期限日や納品が例年より遅く、3月までとなった。
- ② 図書館内に所蔵図書を配架するため、調べ学習用など冊数の多い資料やシリーズ本（2・4・6巻など）は図書準備室に別置した。
- ③ 図書の「3桁分類」への転換作業や書架の見出し作成を進めた（継続中）。

### 【学校図書館支援員との連携・協働】

- ① 図書館オリエンテーションを1年生の国語科教員と日程を調整し、国語の授業時間内で実施した。コロナ禍により1-1のみ実施できなかったため、次年度2年生向けのオリエンテーションも実施予定。
- ② 図書委員会活動では各クラスに図書委員のおすすめ本として毎月図書を交換するなど生徒の読書の

推進に努めた。

- ③ 調べ学習時に必要な資料について積極的に担当教員と支援員が連携・協働に取り組み、授業や修学旅行で必要な資料について相談や情報交換を行った。

#### 【その他】

- ① 感染予防対策のため、来館できる時間が限定されてしまったが、貸出冊数を増やすなどして利用を促進した。
- ② オリンピック・パラリンピックやキャリア教育等の関連資料を展示し、図書に興味をもってもらえるよう計画的に取り組んだ。

### 5 学校図書館運営に関する全体評価（自己評価）

感染予防対策により学校図書館の利用時間を制限する時期もあったが、オリエンテーション実施時には密にならないよう、生徒一人ひとりが取り組めるプリント（クイズ）を配布し、図書館や図書についての理解を深めさせた。

例年、特に定期考査前は自主学习として図書館を活用させているが、今年度も利用が少なく貸出・返却のみの利用とした期間もあった。短時間での利用が可能となった時は、手洗いや間隔を空けての閲覧席の利用を呼びかけ対応した。

### 6 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（外部評価）

実施できなかった。

### 7 今後の展望 —課題や問題点への改善・対応方針を踏まえて—

読解力が重視される現在、読書が苦手な生徒の興味を惹くアイデアやイベント・掲示など、図書委員の意見に耳を傾け、生徒が学校図書館に足を運びたいような工夫を続けたい。加えて、調べ学習やキャリア教育のための資料や図書館内の展示や掲示の充実を図り、生徒の読書活動向上のための学校図書館環境を整備する。

生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、学校図書館の「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能向上を実現し、PDCAサイクルに基づき、学校図書館運営の改善に努めたい。

## 令和4年度 学校図書館基本計画・評価シート

足立区立 東島根中学校 校長 大瀧 訓久

## 1 学校教育目標

## (1) 学力向上

一人1台タブレット端末の活用、主体的に考え学びを深める授業、新聞を活用した読解力向上の取組、家庭学習(東島根っ子ノート)の充実、朝や長期休業中の補習教室、学習コンテスト

## (2) 活気キャリア発達の促進

豊かな心を育む活動、将来を見つめ生き方を考える取組、地域や家庭等と連携したあいさつ運動、行事やボランティア活動

## 2 学校図書館の目標・ねらい 一身に付けさせたい資質・能力、意欲・態度一

- ① 学校図書館を活用し、読書の楽しさを教え、心豊かな生徒を育てる。
- ② 学校図書館の情報を効果的に活用し、主体的に学ぶ生徒を育てる。
- ③ 学校図書館を活用し、自分の考えを表現できる生徒を育てる。
- ④ 読書に親しみ、読書習慣と読書力をつける。

## 3 学校図書館の現状 (令和3年度末)

蔵書状況	① 蔵書数 11,072冊 (蔵書基準冊数 10,160冊) / 蔵書率 108% (元年度末 107%)									
	② 新規購入図書 527冊 / 廃棄図書 437冊 / 増減冊数 90冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合	2.4%	3.4%	12.1%	11%	7.9%	4.7%	2.7%	9.2%	6.2%	40.4%
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間：月曜日～金曜日/昼休み～16:45 (前年度からの変更 あり・ <del>なし</del> )									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 9.5 冊 (前年度：8.6 冊)									
	③ 学校図書館利用率 1,084 % (前年度：1,428 %)									

## (令和4年度末)

蔵書状況	① 蔵書数 冊 (蔵書基準冊数 冊) / 蔵書率 %									
	② 新規購入図書 冊 / 廃棄図書 冊 / 増減冊数 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学9類
蔵書構成割合										
*国基準	6%	5%	16%	10%	15%	6%	5%	8%	6%	23%
利活用の状況	① 開館時間： (前年度からの変更 あり・なし)									
	② 生徒一人あたりの年間平均貸出冊数 冊 (前年度末： 冊)									
	③ 学校図書館利用率 % (前年度末： %)									

## 4 目標達成に向けた今年度の重点指導事項・具体的取り組み

第1学年	① 小学校からの読書習慣を継続しながら、読書に親しむ意欲を育成する。 ② 学校図書館を活用した探究活動を通して、問題発見・解決能力の育成を図る。 ③ 図書の借り方や扱い方等、正しく利用する態度を育てる。
今年度の成果目標	達成基準
① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。	① 第1学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増
② 図書館の本や新聞等を活用しながら探究活動を進め、課題に対して自分の考えをまとめ、表現することができる。	② 読書や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合100%
③ 学校図書館のきまりや仕組みを知る。	③ 学校図書館オリエンテーション(4月)の学年全生徒の受講率100%

目標達成状況	
① ② ③	
第2学年	① いろいろな読み物を読もうとする意欲を育てる。 ② 課題によって学校図書やICT機器を使い分ける活動を通して、情報活用能力の育成を図る。 ③ 学校図書をよりよくするための思考を通じて、規範意識の育成を図る。
今年度の成果目標	達成基準
① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進めることができる。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、必要に応じて学校図書館を活用することができる。	① 第2学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増 ② 読書や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合100%
目標達成状況	
① ② ③	
第3学年	① 読書をとおして考えを広げたり、深めたりしようとする意欲を育てる。 ② 学校図書やICT機器を活用した探究活動を通して、言語能力の育成を図る。 ③ 学校図書をよりよくするための活動を通して、主権者としての素養を育成する。
今年度の成果目標	達成基準
① 休み時間や放課後の時間等、主体的に学校図書館を活用して、読書ができる。 ② 課題に応じて、本や新聞等、ICT機器を使い分け、探究活動を進め、表現することができる。 ③ 学校図書館のきまりや仕組みについて理解し、よりより仕組みについて考えたり、話し合ったりすることができる。	① 第3学年の生徒一人あたりの年間貸し出し平均冊数前年度比10%増 ② 学年生徒の調べる学習コンクール参加率100%以上 ③ 読書や探究活動の授業を年5回以上実施するクラスの割合100%
目標達成状況	
① ② ③	

## 5 学校図書館環境整備に関する取組計画・方針及び成果・効果

取組計画・方針	成果・効果
<b>【蔵書・配架等に関すること】</b> 限られた書架スペースのもと、魅力的な資料構成をめざし、廃棄、選書を厳選する。 視覚効果を考え、思い切って書庫にしまう資料と平置きにする資料を選定する。 蔵書点検を行いつつ、3桁分類作業を完了する。	
<b>【学校図書館支援員との連携・協働】</b> ① 図書館オリエンテーションを1年生の国語科教員と日程を調整し、国語の授業時間内で実施する。感染症流行のため実施できなかったため、出来なかった2年生向けのオリエンテーションを実施する。 ② 図書委員会活動では各クラスに図書委員のおすすめ本と	

<p>して毎月図書を交換する。図書委員会として返却ボックスを設置し、感染症蔓延時も学校図書館が停止しないように工夫する。</p> <p>③ 調べ学習時に必要な資料について積極的に担当教員と支援員が連携・協働に取り組み、授業や修学旅行で必要な資料について相談や情報交換を行なう。</p>	
<p><b>【その他】</b></p> <p>学校図書館の立地が教室棟から遠いため、クラス、学年貸出などのアウトリーチサービスの工夫をするとともに、各生徒のデバイスから学校図書館のOPACにアクセスできる仕組みなどを紹介する。</p>	

**6 学校図書館運営全体に関する自己評価（成果・課題・改善の方向性等）**

**7 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（学校関係者から）**